

校長室より

第2号

「天空高き」



平成22年4月20日



What is this tree ?

なぜ、春はこうも生命感にあふれ美しいのでしょうか。

固く閉じていた冬芽が春の風によって一斉に芽生え花が咲き誇り、野や山は新しい緑に包まれます。それに連動して虫たちが活発に動き始めます。土の中からカエルやヘビが顔を出し始めます。空では鳥たちがさえずり、飛び回っています。実にみずみずしく躍動感にあふれる季節ですが、生き物たちにとっては食うか食われるかの壮絶な闘いがそこでは展開されているのです。

私達はこの生き物に依存しています。食卓に上る肉や魚、野菜の「いのち」を食べることで私達は「生きる」ことができます。「いただきます」はこうした食材になった「いのち」や「恵み」への感謝の気持ちなのです。また、その食材を作ってくれた人、運んでくれた人、調理してくれた人、盛りつけてくれた人など、様々な人たちへの「思い」に対する感謝の言葉でもあります。

科学や技術の発達と効率主義の中で私達は利便性、合理性、即効性などを追い求めてきました。そして、それと引き換えに人間として大切な物を失い、忘れかけているように思えます。その1つが「感謝するところ」だと思います。

現代社会はあらゆる面で豊かになりました。その豊かさの中に貧しさがあるとすれば「このころの貧しさ」です。

建築家の安藤忠雄さん（高校卒から東京大学教授になり、今は名誉教授）は「今の子ども達は人生の基礎となる幼少期に『いのちあるものとともに』生きていない。」とある講演

で話されていました。さらに、「私の建築事務所には東京大学をはじめとして一流の大学卒業生が就職してくる。彼らには事務所の裏に木の苗を植えて育てさせているが、雨の日でも水をやりに行く。『アホか』という『決まっていますから・・・』と。優等生は判断力がなく、間違いを認めない。小学校までの大切な時期に勉強ばかりさせるとこうなる。そんな連中が我が国の舵取りをしているのは怖い。」とも話されました。

皆さんはどのように思いますか。私の授業(生物)では、1年間の課題として自分で育てた植物(主に野菜)を食べるまでのレポートを提出させていますが、我々も地球生態系を構成している一員であるということに自覚して生活してもらいたいと思います。

クラブ活動に参加しよう！

本校では「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」、まさに「知・徳・体」のバランスがとれた教育によって、皆さんに「生きる力」を身につけてもらうことを目指しています。

今日の7限はクラブ紹介です。運動部と文化部の主将や部長が皆さんに創意工夫しながら一生懸命に勧誘すると思います。中学校3年間で皆さんは人生の中で一番、背丈が伸びる大切な時期です。「健全なる肉体に健全なる精神が宿る」ということわざがあります。是非クラブ活動に参加して、「耐えて克つ、磨いて優れよ」(た・か・み・ず からとった標語)を身に付けてください。



常識テストにチャレンジ

付属中では昭和58年(1983年)頃は朝読書ではなく、朝テストというのを毎週実施していました。内容は英語・数学・国語・理科・社会と常識テストでした。常識テストは第2代校長の山本真喜雄先生が毎日の新聞から見出し語をひろい出して、全校生徒(中1~中3、202名)に行っていました。裏に掲載しましたのでチャレンジしてみてください。当時の生徒は88点以上が36名いました。皆さんは何点取れましたか。

高水高等学校付属中学校
校長 前田 茂雄